

HOUSING TYPE SEAT OF VEHICLE OR THE LIKE

Publication number: JP61193938 (A)

Publication date: 1986-08-28

Inventor(s): INO KENJI; ISHIKAWA TOSHIO

Applicant(s): TACHIKAWA SPRING CO

Classification:

- International: B60N2/30; B60N2/44; B60N2/30; B60N2/44; (IPC1-7): B60N1/02

- European: B60N2/30B6B; B60N2/30C2C2; B60N2/30C4B

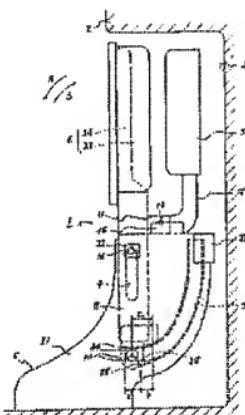
Application number: JP19850033325 19850221

Priority number(s): JP19850033325 19850221

Abstract of JP 61193938 (A)

PURPOSE: Not to be dislocated a seat portion from given housing position even when the positions of a shaft supporting member and a roller stopper portion are deviated by positioning and supporting the seat portion by means of two points of the shaft supporting member and the roller stopper portion which are fully separated in distance from each other in the position of the housing state.

CONSTITUTION: A shaft supporting member 14 is freely inserted into the guide slot 9 of a guide supporting rod 8 which supports a seat portion on a frame 6, and the seat portion is slidably and rotatably mounted. And a roller 10 which is projected into the rear end portion of the guide supporting rod 8 is guided by means of a guide rail 7 installed on the frame 6 to make given operation which is restrained. And in the state of housing the seat portion 1, a pair of the guide supporting rods 8 is in an upstanding position, and the forefront end portion of each guide slot 9 contacts each shaft supporting member 14 to support a load. Further, the guide rail 7 of each guide supporting rod 8 contacts a roller stopper portion 24 in its lower end portion, and the seat portion 4 is positioned not to enter into the inside of a recess portion 3 for housing no more.



④ 日本国特許庁 (JP) ⑤ 特許出願公開
⑥ 公開特許公報 (A) 昭61-193938

⑦ Int. Cl. 4 練別記号 ⑧ ⑨ ⑩ 公開 昭和61年(1986)6月28日
 B 60 N 1/02 Z-7332-3B

審査請求 未請求 発明の数 1 (全 5 頁)

⑪ 発明の名称 車両等の搭載式底盤

⑫ 標 題 昭60-33325

⑬ 出 願 昭60(1985)2月21日

⑭ 発明者 井野 嘉二 昭島市松原町3丁目2番12号 立川スプリング株式会社内
 ⑮ 発明者 石川 富司男 昭島市松原町3丁目2番12号 立川スプリング株式会社内
 ⑯ 出願人 立川スプリング株式会社 昭島市松原町3丁目2番12号

⑰ 代 理 人 井澤 嘉二 外1名

男 副 女

発明の名称 車両等の搭載式底盤

特許請求の範囲

フレームに底盤を支撑する車内支持支柱の室内底盤を熱交換材で接触かつ吸音材に覆してし、上記室内支持支柱の後端部に設けたローラを上記フレームに設けたガイドレールに嵌めし、上記ガイドレールの下端部にローラスッパ部を設け上記底盤の吸音状態の位置で上記室内支持支柱を互いに固定の取れた上記支持支柱部と上記ローラスッパ部とで底盤を固定するようこしたことを特徴とする車両等の搭載式底盤。

発明の詳細な説明

【底盤上の構造分類】

本発明は車両の車内底盤部等に設置される、折り畳んで収納可能な搭載式底盤に関する。

【従来技術】

従来の車両等の搭載式底盤には、底盤内蓋板10個に例示するようなるのがある。この底盤には

車両の車内側壁の外側用部材内に納められるもので、その使用時には底盤側に取付するよう、底盤側を左側右側に引き出すとともに、底盤側部を引張し着脱可能に設置する。また、不使用時は底盤側を左側右側に引き戻し、車内側壁の外側用部材内に底盤側部及び底盤側を取付するものである。

このため、この従来技術の底盤は、車両の車内側に設置されたフレームと、底盤側部とをもつ。このフレームは、全体構成底盤であって、その側面部内側面の所定位置にはそれぞれ全体が構成した底盤コ李身のガイドレール側面を、その側面が外方に向く状態に固定してある。

また、底盤側部ととしては、底盤側の部材フレームから一対の車内支持支柱両側を実施し、この各室内支持支柱側の中間部にはそれぞれ車内底盤側部を接するとともに、各室内支持支柱側の車内側部外側面にそれぞれローラ軸部を設置する。さらに底盤側の底盤フレームにおける部分にはそれぞれ輪支承(11)、(12)を取付す

特許昭61-193338(2)

る。そして、背もたれ部の座面フレームから脱落された一対の支承部材（11）（12）の各端部をそれぞれ取付する側面支柱（13）に面を接着ビン（13）（14）で接着する。このように構成された座面10及び背もたれ部はフレーム間に接着するもので、その座面部側面構造の各底面内又は支承部材の底面又は側面にそれぞれ接着部材（14）（15）を達成し、この各部材部材（14）

(14) 中央出端部をフレーム端の両側部にけるも上方端部規定位置に取付ける。これとともに、各案内支持支柱部の各ローラ部を各ガイドフレーム側面の溝内に滑らかに移動可能に装置する。これによって、駆動部を失印又は下方に向

を助かす原形で、底流滑流成膜の各モード初期がガイドレール側面の溝内を束ねられて移動するのに従って、フレーム側に固定された給油部材(10)(11)を軸として當円錐滑油供給により滑油及び油を供給する。原形の滑油供給部材

また、座標印の使用状況あっては、座標印の各部内を支持印印の一部が、フレーム始の調整部

の上端部にそれぞれ4枚に折曲して突起しそとの内側の2バーに嵌合した支撑器(10) (15) に当接して原定の使用状態を保持する。さらに、底座の不使用状態にあっては、各室内支撑又軽微の底座側面の2個の凹部がそれぞれを支撑副底面の凹部(10) (15) に嵌接して原定の不使用状態を保持するよう構成してある。

そして、この車の内装部は各種用具類の内に座席部等を除いた不使用状態において、車内駆動部の外観（ボディガーニッシュ）と、駆動部の内面であるランディングガーニッシュ（4s）とが同一平面にあるようになし、座席部等の施設部の外観を丸くしようとするのが審美である。

（経済が解決しようとする問題点）
しかしながら、このように構成された施設式の施設運営では、一度施設の基幹部の位置決めを、一方で室内支障評価部の位置を定めた（14）を実現する施設内監視機器と、これに連絡して操作した監視室における室内支障評価部と、これらが連絡して操作した監視室における室内支障評価部とで行なう。

ていたため、わずかな駆逐旗以上の寸法旗等が甚大され、哥納等のクッションガーネッジ（40）の駆逐位置に大きく影響する。よって、ボディガーネッジとクッションガーネッジ（41）との間に駆逐内壁を立じ、外壁を厚くするという構造があった。

本発明の更開発の協約式底座は、上述の点に加え、底座側の車内底盤側の協約用底面部内に協約時の位置決めを正確に行なえるようにして、底盤側等を協約なし不使用状態の外観を良好にすることを目的とする。

〔作例〕
上邊のように構成することにより、藝術的构造の位置で互いに十分距離の離れた松井義郎「15」とローラストップ部(16)との連続で既に決めて支撑するので、この二つの位置が實際上又は立派の位置とよりその位置が多少ずれても、直線が既定の構造位置から大きく外れるようになると不自然と作用する。
(前回は松井義郎の作例)

〔実施例〕
以下、本発明の車両等の構成部品の一実施例を第1圖乃至第4圖によって説明する。なお、この図は構成部品1圖において、第1圖乃至第4圖に示す部品は同一符号を付すこととし、説明を省く。

の便ならしめる。

第1図は本病の正常の全体概要図で、第2図はその各種病状図であり、フレーム術は、底面図(20)と、この左脳図(21)の両脳部からそれを抽出して左方と右方とに底面図(21)と、この四面図

特開昭61-183936(3)

板(21)の上端後部に接着するように配置された底面状の被替支板(11)とにより全体略底面状に構成する。そして、このフレーム部に底面形状を介して底面部及び背もたれ部を含むするものである。

このフレーム部の底面板(20)の所定4箇所に用付け用スルット穴(22)を穿孔する。

また、その背面底面(11)の各内面所定位置にはそれぞれ底面形状複数個の一周を構成する各ガイドフレーム部を配置する。本体のガイドフレーム部は、所定2字形で全体が構成したものであり、第1間に示すように、ガイドフレーム部の下端部にかける上端部の底面に羽板部、底面板(20)の上端部所定位置に取付けた被替支板(11)の中央部を中心とする円形に配置する。さらに、ガイドフレーム部の上端部にかける下端部を円弧状に折りしヨーラストップスルット(24)を配置する。また、ガイドフレーム部の下端部における下端部の底面に部分を滑らかに外方に向く斜面(25)を形成する。さらにガイドフレーム部の下端部の底面に部分をすなわち、

下端部の斜面(26)の先端から、ローラストップスルット(24)の先端部にかけての区間を併せて斜面(26)を形成する。

また、このガイドフレーム部を構成したフレーム部にかける両側面板(41)の上端部から、一方的に突出した斜面部を内方に向けて底面形状に貢献し、支持部(15)を形成する。さらに、この支持部(15)には、第2回及び第4回にも示すように内側の底面部に、支持部(15)の半分程の長さ部分を立てるラバー(27)を設置する。

また、フレーム部の底面支板(22)における内側底面位置にばねね文板(28)を設置する。このねね文板(28)は長板の側面部を貢献し、この構成した部分(29)を被替支板(20)に面接し、このねね文板(28)の先端部が底面形状折りの方に向く底面に取付けるものである。さらに、このねね文板(28)の先端部にはばねね部底面用の供着孔(30)を穿孔する。

また、このフレーム部の両側面板(41)の上端部内面所定位置にはそれぞれ底面部に接着する

ために、透孔(31)を穿孔し、各側面板(41)の外表面には、それぞれ透孔(31)を穿孔する。

この底面側は、第1回及び第3回に示すようにクッション性体部(33)を形成フレーム(34)に取り付けて構成したものである。この脚部フレーム(34)はパイプ材を底面形状に組んで構成したもので、その両側部から見出したパイプ材をそれぞれ底面形状にして一对の室内支持支材部を構成する。

この室内支持支材部に、その中间部に底面形状の両内底面凹部を原座するとともに、その自由端部にはローラ支持具(35)を取付ける。このローラ支持具(35)は、先端部外側面からローラ部を脚部自由端に充填したもので、その先端部から底面形状にかけて、内側に入り込むように折曲して形成してある。

さらにこのローラ支持具(35)の底板部から上方に延びた脚部底片を削除し字形状に形成し、当該支持部(37)を構成する。そして、ローラ支持

部(33)は、底内支持支材部の自由端部内側に、その裏面支板部(36)が所定位置に設置するように配置するものである。なお、底内支持支材部は、パイプ材を接して構成するので、その接し側部分が加工底面の変化によりばらつくものである。しかし、この底内支持支材部に両側部の裏面支板部(36)をモウローラ支持具(16)を接合して固定するようにしてあるので、底内支持支材部に接して裏面支板部(36)が底面形状に固定されるよう容易に構造できるものである。

さらに、一方(本例では底2回の上部に示されたもの)の底内支持支材部に接合されたローラ支持具(35)の底板部の所定位置には、これらを固定する透孔(38)を穿孔する。

また、形状フレーム(34)の脚部底片(30)の所定2箇所にはそれぞれ透孔(39)を穿孔した状態(40)を固定する。そして、貫したれ部の脚部フレームから先端された一对のし字形状(12)、(13)の各内側面に孔を穿孔し、それぞれ対応する各ねね板(41)に、各側

特開昭61-183038(4)

ビン(13) (15) で拘束する。

このように拘束した底部に及び育もたれ部頭をフレーム間に拘束する。このため、まず底部間にあける各室内支持穴向外の自由端部のローラ頭をそれぞれフレーム側の各ガイドフレール側間に固定する。この際、ローラ頭をガイドフレール側の下、底部の開口(15)を遮して、ガイドフレール側の側内に導入するので、フレーム側に作用する防ぎとなる節骨もなく、この筋を作業する際には見えらる。

なお、ローラ頭をガイドフレール側の上端部からその端内に導入しようとした場合、フレーム側の支持部(16)が障害となり、そのままでは導入できない。よって、ガイドフレール側にローラストップ(23)を設けたもので、ガイドフレール側の下方向からローラ頭を操作できるようにするため、開口(25)を設置することが必要となるのである。

そして、各支持部材(10) (16) を一対の室内支持穴加封部の室内基部頭のそれぞれに接合し、その各支持部材をフレーム側の各開口(15)

(30) に固定して、一対の室内支持穴加封に支えられた底筋が室内基部頭とガイドフレール側と共に束ねられ拘束するようにした底筋拘束装置を達成するものである。

また、第6回及び第7回にも示すように一方の室内支持穴加封の開口(30)とばね支柱(20)の底筋底(21)との間にねじりコイルばね(40)を設置し、底筋拘束装置手続を達成するものである。

次に上述のように構成した本例の底筋等の各部の作用を説明する。

まず底部の不整地時の基部底面では、第1回及び第7回に示すように、車内側面の車内側面拘束部間に育もたれ部頭及び底筋頭を接続した状態にある。この状態では、第7回に示すように、対の室内支持穴加封は底面に育り、その各室内支持穴加封の底筋底筋が各支持部材(10) (16)に接合して底筋等を支えている。

さらに、各室内支持穴加封のガイドフレール側は各ガイドフレール側の下端部にあるローラスト

ップ(23)に当接して、それ以上底筋側が拘束用開口内方に入らないように位移拘束を施する。このようす、互いに相接の開口部の底筋部材(10)と、ガイドフレール側のローラストップ(23)とにより位移拘束するので、多少の底筋屈曲上の拘束此を遮りがつても底筋はされた拘束拘束がずれる拘束が施して快いので、底筋側が底筋底筋の範囲で拘束位置に拘束拘束が可能となる。

また、この状態では第7回に示すようにねじり支柱(20)と開口(30)との間に接合されたねじりコイルばね(40)の先端が両側への拘束力により、ローラ頭がローラストップ(23)に正接しその位移拘束より離脱するとともに、底筋側が常に失却する方向に倒れでこないように拘束するので、多少の拘束が加わっても底筋拘束を実現して拘束できるものである。

次に底筋の位移拘束に際するには、底筋側を、ねじりコイルばね(40)の拘束力に依て矢印A方向に引く。すると、ローラ頭がガイドフレール側の拘束を室内されながら走ら込むことにより、室内支

持穴加封は被削しながらその室内底筋側に室内支持頭を離す間に矢印Bで示す方向に進む。なお、ここで、ガイドフレール側の底筋側部分が底筋部材

(10)を中心とする円錐状のくぼみ部分には底筋部材(10)と、ガイドフレール側の上端部からローラ頭を介して室内支持穴加封の底筋を拘束するので、実質的にこの部分に対応するガイドフレール側の下端部は不用である。しかし、多少の被削頭を考慮し、開口(25)で室内できるようにしてあるから、動作がスムーズに行なわれるものである。

ここで、室内支持穴加封が水平被削底から約45°傾いた状態、すなわち、ローラ頭がガイドフレール側の底筋底筋に来たとき、ねじりコイルばね(40)のねじり拘束量が最大となる。従って、その拘束力もこの位置で最大となり、矢印A、室内支持穴加封を矢印A方向に拘束するよう動作するものである。

以上より、このねじりコイルばね(40)による拘束力は、室内支持穴加封が約45°傾いた中間位

新開昭61-193938(5)

団を基として、窓内文件支行網を復元復興万円又は復元復興方向に就けて復興方に働くことになる。

そして、窓内両支柱が水平方向に傾いた状況では、13枚図及び6番図に示すように、
①柱頭ガイドフレームの上端部を位置し、フレーム間に固定された支柱部 (14) に窓内長辺部、
の後端が収容するまで窓内両支柱が先端部で
示す方向に傾いた状況にある。さらにこの状況
では、窓内両支柱部の後端部分がフレーム頂部
支柱部 (15) を駆使したラバ (20) に接触して、
遮断部の左端部及び右端部 (40) の間に摩擦
力を含む左側と右側の方向の運動力を遮断的に支
えられて、遮断部を後端部に駆使したと文
される。よって、遮断部を後端部に駆使したと文
され、また窓内両支柱部の一部がラバ (20) に
接触して遮断部を駆使するので、不快な金属の衝
撃を防止できる。

そして、監部の背もたれ側を腰を回に采ず水平に横れた状態から矢印Dで示す方向に引き起こし、第3腰に示す使用状態にセットする。

このような使用状態で切妻管が着座すると、第

4図に示すように室内支持支柱間に係る荷重を受けるバー(27)が剥し離されるが、そのときの強度により、着底者が海底時に受けれる災害を防ぐ構造を有することが出来る。

またこのラバー(37)がある一定量被されたとき
第五圖に示すように形態支持部(31)がフレーム
側の支持部(13)のラバー(27)を覆設していない
部分に当接する。すなわち、剛体として拘束さ
れた支持部(13)に、剛体として拘束された形態
支持部(31)が直接当接して握りぎり支持する
ものである。

このため、若者たる体の柔軟性によりラバー(21)の押し倒し量が変化し、底板の水平とのなす角が不安定になるということを防ぐ。底板の柔軟性からわざと底板の角度が変形により下がることがないように支持でき、年長者に安全な底座の安定感を与えることができるものである。次に、使用経験からある底板形状を採用するには、上部と底部をひらめく手形で行うもので、まず図3に

バ郡との2点により位置決めを行うので、多少の額度組立上の誤差があっても直部の格納所の位置の誤差を小さくすることができるという効果があ

明末中國女詩選

第1図は不規則形の底面等の各格式底面の一貫性を示す底面図、第2図はその底面の分野斜傾面等3面の底面の斜傾面、第4図は第3図V-V線による底面図、第5図は第3図V-V線による底面図、第6図及び第7図は動作を前後するための運動の斜傾面、第8図及び第9図は底面の底面等の各格式底面の一貫性を示す斜傾面、第10図はその底面斜傾面。

仰臥直立、仰はフレーム、仰はガイドフレーム、
仰はローラ、(10)は拘束装置、(24)はローラー¹
ストップ部、(26)は開口、(27)はラバー、
(36)はローラ支承筒、(37)は直立支持具、
(41)はローラ回転部である。

し、頭を面に示すように直角の及び直角した形の頭を左方に向て、はじりゴイルばね（41）の筋筋力を活用して引き上げる。すると、黒内皮筋支持物が45° 位置にした頭を握りにねじりゴイルばね（41）の筋筋力の方向が逆筋筋となつて、この筋筋力の筋筋を受けながら黒内皮筋支持物を筋筋用頭部側の筋筋頭部に施設できるものである。

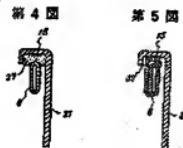
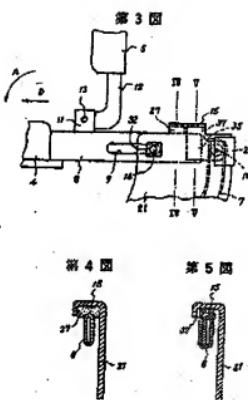
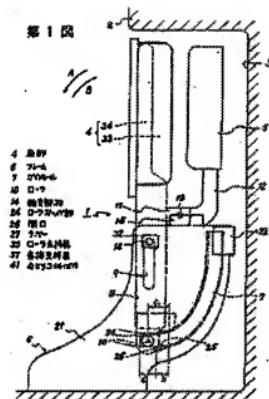
このように、遮断印を使用後又は取扱説明書に記載する事項には必ずヨコイリば(4)により遮断印の遮断場所を示すもので、操作がやり易い。

また、遮断印を使用後又は取扱説明書に記載しようとすむものはヨコイリば(4)、上部用力が弱くて、遮断印をそのままの位置に保持するためヨコイリば(5)遮断印が有用である。しかも、本取扱説明書に記載する遮断印は多少の振れ動き等の影響が加わっても、

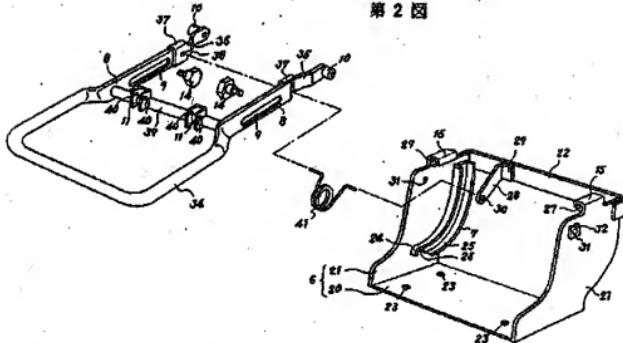
正形を規定するに依存せざるものである。
（発明の範囲）

—255—

特開昭61-186938(6)

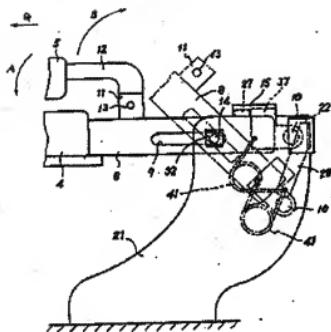


第2図



特開昭61-193938(7)

第6図



特開昭61-103038(8)

第10図

